



# 第 26 号

# 千 町 田

## 上半期を終えて 副代表理事 佐伯正志

組合員の皆様には、平素より作業にご協力いただき誠にありがとうございました。上半期の一大事業である田植え、麦・菜種の刈取り、大豆播種が無事終了し、ほっとしたのも束の間、あっという間にWC S (飼料用稲) 刈取り、稲刈りと秋作業が目の前に迫ってまいりました。

今年度より、のきの郷のライスセンターが稼働し保有米・縁故米の処理を行います。最新技術(LED色選機など)により、皆様にはより良質の飯米が届くことになると思います。今年は飯米のみですが来年以降は随時稼働率を上げていき、将来的には40ha程度を処理する様にする必要があると考えています。

さて、来年度からは米の所得補償制度がなくなります。これは私案ですが、対策としてWC Sの

作付面積を増やすことを提案いたします。WC S刈取り後、そば作付をワンセットにすれば経費削減につながり収益も増加すると考えます。もちろん需要と供給、相手あってのことですが可能な限り取り組む必要があると思います。また、湯水対策としてそば刈取り後麦作付という組み合わせも必要になってくると思います。特に5工区は堤掛かりの圃場が多く水稲ばかりでは水がもたないという弱点があります。これを補うには、そばと麦という組み合わせがベストではないかと思えます。また、大豆の連作障害の対策にもなると思えます。幸い、のきの郷圃場ではフォアスがあるので湿地を嫌う大豆、麦、そばの栽培にはうってつけだと思えます。あとはいかにして販売するかという問題をクリアしなければなりません。品質はもとより営業にも力を入れなければならぬと思えます。一方的に



### 理事研修会 企画部長 坂田宣雄

7月28日大田市で開催された「こだわりの取組み強化に向けた研修会」に理事8名が参加いたしました。(株)食糧問題研究会月刊食糧ジャーナル編集部長鶴田裕氏を講師とし、特に平成30年産以降の米について各地域の対応についての話でありました。

当法人の経営の根

持論を展開しましたが組合員の皆様にもいろいろな考えがあると思えます。これはいい案があれば、どんどん受け付けますのでお聞かせください。

今後の作業にもどうか体調には気を付けて安全第一で取組んでいただきたく思います。今後ともご協力よろしくお願ひ致します。



幹である米の動向について各地域の取組みを聞くことができました。そのなかで、「価格は下落予測で推移するのではない」「市販用の消費減少のなか業務用の消費拡大に努める必要」「適正な品種構成と契約栽培」などがありました。特に契約栽培についての事例発表は、買取集荷で安定的な生産販売を行うケースと各県で進む適正な品種構成の体制整備の取組みについてでありました。当法人でも今後の進むべき方向を模索するうえで参考にすべき内容でありました。

いっしょにまかせ

- 6月19日 県農業技術センター経営監査
- 6月20日 出雲 野尻地区視察来場






# 第5回

# きてごしない祭り

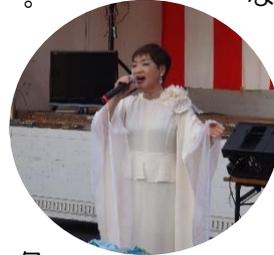
7月16日(日)のきの郷敷地内で

『第5回きてごしない祭り』を開催しました。代満てを兼ねての開催ということで、すべてを無料提供としました。

催しは夕方から始め

たのですが暑い中でもあり、飲み物など品切れになるものが続出してしまいました。

た。屋台も盛況で準備したものがすべて無くなり、欲しいものに手が届かなかった方もおられたかもしれません。この場を借



りお詫びいたします。

会場ではカラオケ大会が行われま



最優秀賞 小林厚さん

した。歌手の方を招き持ち歌の披露をしていただき、また

各町内より選抜で出場された方々飛び入りもあり、大いに盛り上がりました。カラオケ大会の最優秀賞は、利弘町の小林厚さんでした。

その後、景品総数70本の豪華大抽選会もあり、にぎやかな夏の夕べを過ごすことができました。運営に参加してくださった皆様、

暑い中本当にお疲れさまでした。



1等が当たった 小林喜久郎さん



## 田んぼの様子

夏真っ盛り、稲刈りが続いています。田んぼでは稲や大豆がすくすくと育っています。WCS(稲発酵粗飼料)用稲は8月に入ると刈取り、ロール作業が始ま

ります。つや姫とコシヒカリは出穂し花が咲き8月下旬には稲刈りが始まります。大豆畑は青々と

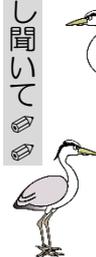


した大豆の葉に覆われています。環境保全組合で草刈りが進められ畦畔もさっぱりしているの



まさに今は青葉の海です。たまにはサギ達に交じって田の風に当たってみるのもいいですね。

ちよっこ聞いて



きてごしない祭りはいかがでしたでしょうか。祭りの開催を皆様に楽しみにしてもらえたらうれしいな(さ)